

国際研究拠点化について

永宮 正治

J-PARC センター

日本原子力研究開発機構
高エネルギー加速器研究機構



J-PARCにおける国際化とは？

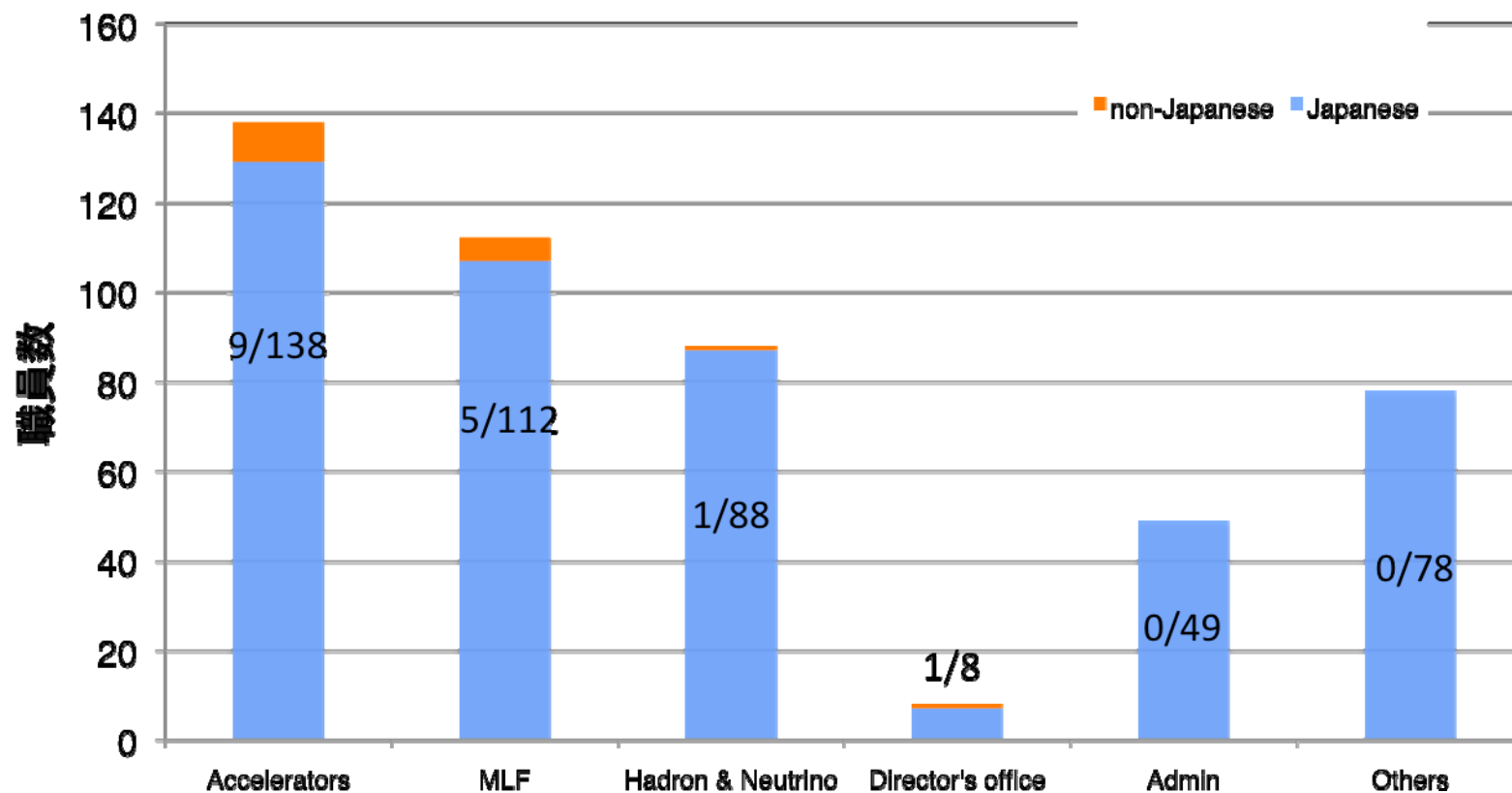
- 外国人施設利用者にとって重要な点とは?
 - 優れたサイエンスができる可能性／高い装置性能
 - アクセスのしやすさ／使いやすさ
 - 長期滞在者：生活環境（住宅、交通、教育）の良さ

- 国際化の指標とは?
 - 外国人職員数／ユーザー数／見学者数
 - 主催または共催した国際学会／シポジウム数；国際協力協定数
 - 国際広報/アウトリーチ活動
 - 外国からの参加形態

外国人職員数 (2012年4月現在)



博士研究員／契約社員／アルバイトを含む



外国人職員数は全体の3.4% (16/473)

ユーザー実数

年度 施設	H20年度(2008年度)		H21年度(2009年度)		H22年度(2010年度)	
	総数		総数		総数	
	うち日本人	うち外国人	うち日本人	うち外国人	うち日本人	うち外国人
	うち日本人学生	うち外国人学生	うち日本人学生	うち外国人学生	うち日本人学生	うち外国人学生
ハドロン	155		165		206	
	110	45	104	61	144	62
	53	11	59	16	81	19
ニュートリノ	268		328		308	
	49	219	50	278	51	257
	13	43	16	77	16	81
中性子	182		378		529*)	
	161	21	353	25	485	44
	27	11	88	7	128	18
ミュオン	12		57		55	
	12	0	55	2	48	7
	3	0	23	1	16	3

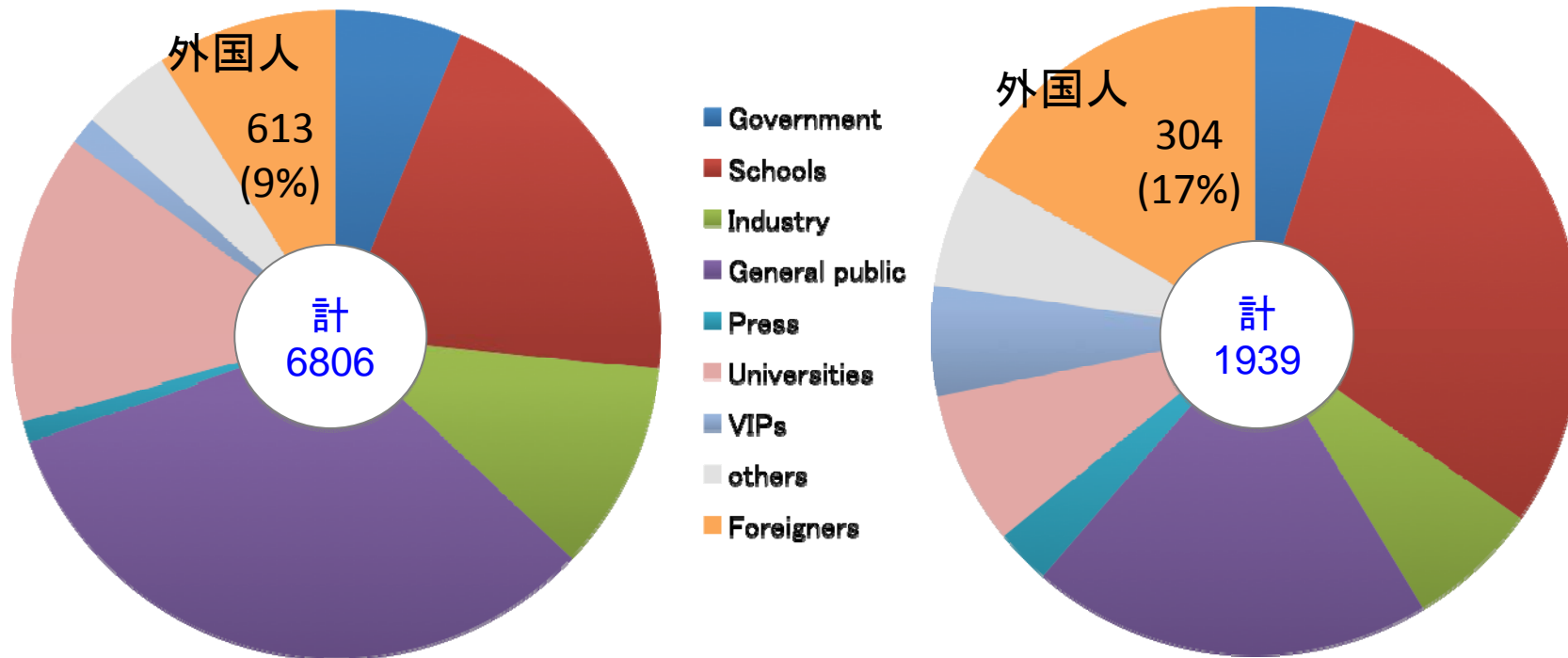
*) 内、生物関係は27名。ただし、登録者数は50名以上。 4

J-PARC 見学者数



April 2010-March 2011

April 2011-January 2012

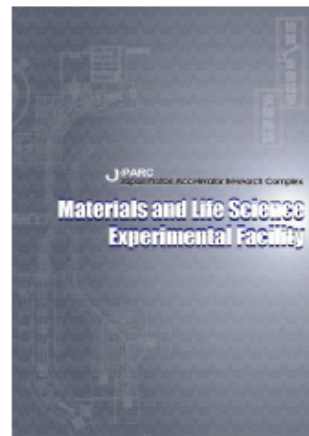


震災による施設の閉鎖の影響で、見学者実数は大きく減少したが、外国人見学者数比率は上昇した。これは、復旧作業の中、各部門が国際会議、シンポジウムなどを積極的に開催し、その外国人出席者のJ-PARC見学が多かったためと考えられる。

Annual Report, Newsletter, 等



- パンフレット
- 年間活動報告 (J-PARC & MLF)



- *Project Newsletters*
(電子版、隔月)

J-PARC Project Newsletter

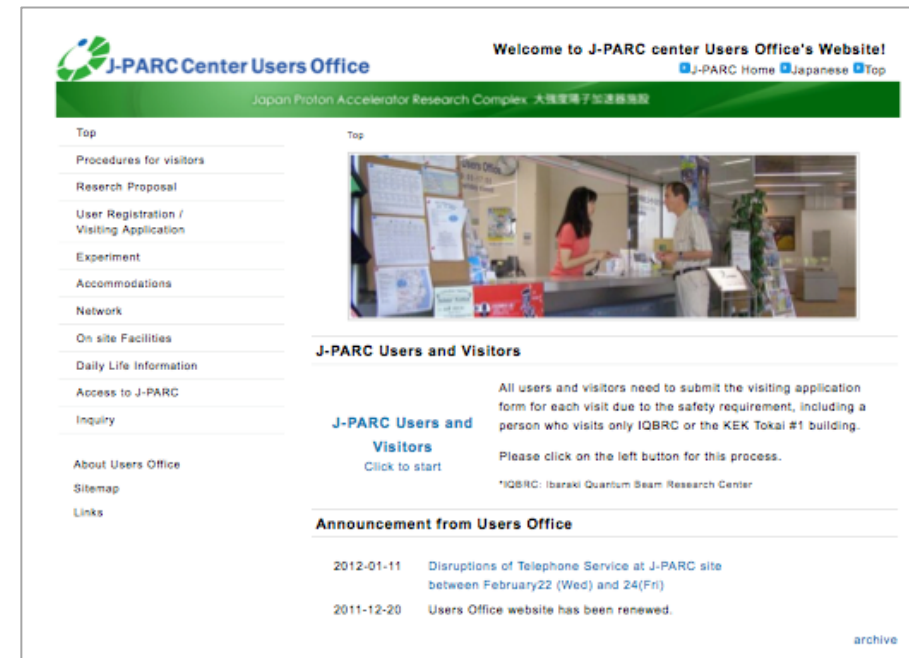
No. 47, Jan. 2012

Japan Proton Accelerator Research Complex under operation jointly by the High Energy Accelerator Research Organization (KEK) and the Japan Atomic Energy Agency (JAEA)
<http://j-parc.jp/index-e.html>

HEADLINES AND CONTENTS

Web の更新

- J-PARC 及びユーザーズオフィス Websites: 2011年12月に一新



今後の課題：
 正確な情報の適時更新
 英語ページの改訂

Website ヒット数(2012年3月)：
 日本語ページ: 1000万
 英語ページ: 150万



J-PARCに関する国際協定等の締結先

【多国間】

- CEA(仏・原子力庁), CNRS(仏・国立科学研究センター)
SCK・CEN(ベルギー・原子力研究所), PSI(スイス・ポールシェラー研究所)
ENEA(伊・新技術エネルギー環境庁), KIT(独・カールスルーエ工学研究所), KAERI(韓国原子力研究所)
- CERN(欧州原子核研究機構)

【2国間】

- PSI (スイス・ポールシェラー研究所)
- STFC(英・科学技術施設会議)
- JINR(露・ドゥブナ合同原子核研究所),
- BINP(露・ブドカー原子核物理学研究所)
- グルジア文部科学省
- IHEP(中国科学院高能物理研究所)
- CKOrJ-PARC(韓国J-PARCユーザーセンター)
- BATAN(インドネシア原子力庁)

上記以外にも研究者あるいは実験施設レベルで様々な研究協力が行われている。



前回評価作業部会での指摘への対応 (1)

研究環境及び生活環境の国際化が必要である

(研究環境)

- ・ 課題申請の英文化
 - 物質・生命では、課題申請時から、中性子の産業利用を除いて英文化素核の提案書や審査は、もともと英文
- ・ インターネット環境の整備
 - 利用者はJ-PARC全域で、自分のPCをゲストLANに無線/有線で接続可
- ・ 外国人研究者のユーザズオフィスの整備
 - 英語の出来るスタッフの配置、英語ホームページの整備など
- ・ 外国の研究環境やニーズを理解し、汲み取ることのできる支援者の雇用
 - 米国大学院でPh.D.(地球科学)取得、その後米国大学研究教官として10年間勤務した人物(日本人)を、H23年7月から国際推進役として雇用
- ・ 研究雰囲気国際化
 - これが最大の課題。国際的水準に達するには、まだまだ。(外国人からは、J-PARCコロキウムの開催提案等が出ているが、今後検討が必要)



前回評価作業部会での指摘への対応 (2)

(生活環境)

- ・ 利用者の居室や宿舎等の環境整備は喫緊の課題
 - 宿舎は49室を整備(H23年1月)、残りは手配中。居室は予算要求中
- ・ 居室における英語表記
 - 未完 (JAEA全体としての取り組みが必要)
- ・ 多種民族に対応した食堂などの環境整備
 - 今後の課題として検討する
- ・ (自治体・地域社会と協調した取組みとして) 研究者の家族の教育、医療等の生活支援や家族の活動機会の充実
 - 外国人滞在者と東海村長との定期的懇談会、外国人職員、家族及び地域住民との懇親会、英語セミナーの開催などを通じて意思疎通を図るなど、対応を実施中。

(諸外国との連携強化や国際的な広報活動)

- ・ 広報担当者を配置し、国際的な広報活動の強化を図っていくことが必要
 - 国際推進役がこれを兼務し、国際学会施設ブースで説明、英語版ホームページの改訂、英文広報誌の発行など、国際的な広報活動に参加。

まとめ

○ 前回の評価での指摘に対応できていない点：

環境整備（宿舎、食堂、居室）

○ 国際化が徐々に進展中

- ・ 外国人スタッフ、ユーザー、見学者の増加
- ・ 国際協定等の締結による海外機関との連携
- ・ ユーザーズオフィスの強化
- ・ 国際推進役の配置

○ 今後の課題

- ・ 何はにおいても、国際的なアカデミックな雰囲気 of 樹立
- ・ 住宅環境や交通環境の整備
- ・ 外国からの資金運用に関するアカウントの整備
- ・ 外国からの資金流入の調査
- ・ 外国人雇用の拡大